

平成26年度事業報告（養徳園）

1 運営全般について

平成26年度事業計画に基づき、基本的な生活援助の充実や心理面に配慮した援助に努めたほか、(1)被虐待児への治療的アプローチ、(2)職業指導、リーディングケア及びアフターケアの強化、(3)学習指導の充実、(4)性教育の実施、(5)施設養護におけるソーシャルワークの充実、(6)育ちアルバム及び（自己）研鑽ノートの実践、の6つを重点目標とし、児童援助の向上に努めた。

また、給食・環境美化・安全管理・広報の4つの委員会を設けて、職員の一一致協力の下、施設運営にあたった。

広報紙「オアシス」を3回発行するとともに、ホームページを通じ情報の公開に努めた。

2 児童の動向

(1) 学年別在籍数（措置児童）

平成26年4月1日現在（オアシスの家・野辺山の家を含む）

	未就学児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他	計
男	4	0	1	5	3	2	3	1	2	2	2	1	1	0	27
女	1	2	3	3	0	5	2	4	2	0	2	1	1	1	27
計	5	2	4	8	3	7	5	5	4	2	4	2	2	1	54

平成27年4月1日現在（オアシスの家・野辺山の家を含む）

	未就学児	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	他	計
男	2	1		1	4	3	2	1	2	3	1	2	1		23
女	1	1	2	4	3		5	2	4	2(1)		2	1	1	28(1)
計	3	2	2	5	7	3	7	3	6	5(1)	1	4	2	1	51(1)

()は一時委託保護

(2) 月別入退所の状況（措置児童）

月	性別	初日 在籍数	入所数	退 所 数				月末 在籍数
				家庭復帰	措置変更	就職自立	里親	
4	男	27	1					28
	女	27	1					28
5	男	28	1		1			28
	女	28						28
6	男	28						28
	女	28						28
7	男	29	1*					29
	女	27				1*		27
8	男	29		1				28
	女	27						27
9	男	28						28
	女	27						27

10	男	28					28
	女	27	1*				27(1)
11	男	28					28
	女	27(1)	1	(1)			28
12	男	28		1			27
	女	28	(2)	(1)			28(1)
1	男	27					27
	女	28(1)		(1)			28
2	男	27					27
	女	28					28
3	男	27		1	1	1	24
	女	28	(1)				28(1)

()は一時保護委託(レスパイトケアを含む)

※は1日付け入退所

(3) 一時保護委託(レスパイトケアを含む)及びショートステイ利用状況

年齢・学年・性別	児相	期間	年齢・学年・性別		期間
小3女	県北	10/26~11/08	2歳男	さくら市	04/10~04/14
小3女	県北	12/07~12/13			
小3女	県北	12/20~01/02			

一時保護ののち措置入所になったケースを含めない。その場合は措置入所として(2)に掲載。

(4) 高校進学、卒園生の進路

文星芸大付属(在園)

矢板中央(みやこ家へ)

烏山高校→就職・ん美容室(退所)

南那須特別支援学校→(株)オータニ(在園)

矢板高校食物栄養(みやこ家)→(株)清風(退所)

烏山高校(琴平の家)→白鷗大学教育学部(在園)

烏山高校(琴平の家)→帝京科学大学生命環境学部(退所)

3 養護の状況

(1) 給食

毎月行う献立会議での話し合いを基に、子どもの発達に必要な栄養バランス及び嗜好を考慮し食事を提供した。

分園なのはなは、独立して3食(朝昼夕)ともユニットで献立を考え、買い物をして食事を作るようになった。各ユニットでの朝食づくりは継続して行った。子どもの誕生日の希望メニューも継続して行った。

(2) 健康管理

①健康診断

嘱託医のDr花塚による健康診断を前期9月2日後期H27年3月25日に実施した。

野沢歯科医院にて歯科検診9月1日に実施した。

②予防接種

インフルエンザ 18名 日本脳炎 48名 ポリオ 11名
三種混合ワクチン 6名 4種混合ワクチン 3名 麻疹・風疹 5名
水痘 3名 BCG 1名

③検診

3歳児検診 1名
5歳児検診 4名

④通院（述べ500名） 入院1名

内科 99名（花塚クリニック、小林医院、檜山医院、森島医院、済生会宇都宮病）
歯科 51名（野沢歯科）
眼科 39名（済生会宇都宮病院、加藤眼科、早坂眼科、国際医療福祉大学病院、）
皮膚科 98名（氏家皮膚科、おのこどもクリニック、檜山医院）
小児科 77名（済生会宇都宮病院、国際医療福祉大塩谷病院、おのこどもクリニック
那須赤十字病院）、
耳鼻科 26名（中川耳鼻科、済生会宇都宮病院）
整形外科 18名（半田クリニック）
外科 1名（黒須病院、）
脳神経科・精神科、神経科 91名（佐藤病院、精神保健センター、自治医大小児脳神経、
とちぎリハビリテーション、国際医療福祉大リハビリセンター、氏家病院）

⑤入院 1名（済生会宇都宮病院小児科）

(3) 援助の実際

①被虐待児への治療的アプローチ

児童相談所に通所してのセラピーは、中央児相措置の4名（中1女児1名、年長男児1名）。県北児相措置の2名（中2女児1名、小6女児1名）、県南児相措置の1名（小2女児1名）については、児相の心理職員が来園し本園にて面接が行われた。また、県北児相の被虐待児フォローアップ事業に3名（小6男児1名、小5男児1名、小5女児1名）が月1回の割合で参加し、グループワークが行われた。

施設内の心理療法は、26年度も心理療法実施指定施設の認可を受け、28名の児童に対してプレイセラピー、面接（心理検査、入所アセスメント面接を含む）、生活場面面接等を実施しながら心理療法を行った。実施回数は以下のとおり。

心理療法 521回 生活場面面接 12回 コンサルテーション 33回

法人内研修では、職員を対象に「子どもの理解と援助の在り方」をテーマに、入所時の子どもの情報と入所後の子どもの行動や言葉から、子どもと親の関係性や心情はどんなものなのかを話し合い、次にこの子どもに対して治療的ケアをするなら、大人はどんなことに配慮し、ケアにすべきかなどをグループごとに議論し、子どもを多面的にみるという視点を全職員で共有した。

成果と課題

ユニット制や、グループホームになり10年が経とうとしている。家庭で不適切な養育を受けてきた子ども達にとって、整った養育環境で生活することがいかに治療的であるかということを実感させられる。家という中で自分の居場所があるということ、職員と一緒に笑ったり、泣いたり、時には怒られたり、ケンカしたり子どもの多くは環境の中でケアされている。心理の役割も多様であり、養育環境作りを一緒に考えたり、子どもに対する職員側の不満をきいたり等々。養育環境の柱となるのは、ケアワーカーであり、ケアワーカーが子どもから向けられる、怒りや憎しみの感情に付き合いながら生活を支えるための心理の役割を考えさせられ、できるだけ添うよう努めた。

②職業指導、リービングケア及びアフターケアの強化

25年度より職業指導員が配置された。主な目的として、退所後の社会生活を想定して、生活に必要な知識及び技能の習得を支援する。（リービングケア）さらに、施設退所後の就労を含む生活状況を見守り必要に応じた支援を行うことで、職場への定着を図り社会的自立を促すこととし

た。(アフターケア)

具体的な取り組みとしては、在園児童への職業体験で『ん太郎』氏による「自立部」と称して、月 2 回カット・美容の実習が行われた。退所した卒園生へは、社会適応状況に応じて必要な支援を行った。

職員も支援意識向上のために、2 回（7 月・2 月）に園内研修を行った。1 回目の内容は、リービングケア・アフターケアのための募金箱について、集まったお金を有効的に使うことの確認。職業指導員として、具体的に卒園生とどのように接しているのかの報告。地域小規模養護施設から移動してきた職員より、高校卒業・卒園・進路決定までの流れについて報告があった。卒園後も見守り続けることの重要性を再認識した。2 回目の内容は、普段からお世話になっている「ん太郎」氏による講話を受けた。自立部での子ども達の様子、子ども達への思いなどを語っていた。今後、いろいろな形で、支援下さるとのこと。

職員だけではなく、いかにたくさんの支援者（大人）が必要であることを強く感じた。

③ 学習指導の充実

H26. 4. 22、テーマ：「子どもたちの学力向上のために公文学習をもっと活用できないか」園内研修を行った。

- ・養徳園の公文学習の背景と現在の学習状況について 園長先生、公文担当指導員（南部）
- ・学校教育と公文式学習 日本公文教育研究会 施設サポート部 養徳園担当 平松一成
- ・事例：学年相当のレベルを超えた k 君
- ・ワークショップ 学年相当のレベルを超えるためにはどうすればいいか？
- ・質疑応答

【英語学習について（スピードランニング）】

- ・スピードランニングについて
- ・CD 貸出
- ・英語公文学習 2 名が学習

【学習アンケート結果と課題の検討】

【中学生の塾】 芳村塾 3 名が学習

④ 性教育の実施

< 取り組みの内容 >

6 月と 11 月に園内研修で「生活の中の実践と年齢に応じた学習会形式を通じた性（生）教育」をテーマに話し合った。

- ・性的課題や日頃の様子を話し合うことで、性に対する危機感を再確認し合うことができ、さらに、職員側の意識が高まった。
- ・年齢に応じた性教育全て実施。
- ・外部講師による小学女児 5・6 年生を対象に性教育実施した。
講師 県北児童相談所心理司
(内容) ・プライベートゾーン
 - ・いいタッチわるいタッチ
 - ・それぞれのタッチについて話してもらう
 - ・表情カードを使って学習
 - ・パーソナルスペースを实际測る
- ・外部講師による小学男児 5・6 年生対象の性教育実施できなかった。

< 来年度への引継ぎ事項 >

- ・年齢に応じた性教育実施ではなく、一人ひとりの性育歴を洗い直し、その子に応じた性教育を取り入れる必要あり。それらにちなんだシート作成を行うことを検討する。
- ・危機管理マニュアルに基づき施設内に起こり得る性的な問題の対応について、職員間で共通理解を図る。
- ・危機管理マニュアルの見直し。

⑤ 施設養護におけるソーシャルワークの充実

『施設養護におけるソーシャルワークの充実』親子関係の再構築

10月の園内研修において親子関係の再構築をテーマに研修を行った。児童のケースにおいて、現状のケース記録では即座にケースの概要を把握することが困難な面もある為、フェイスシートの作成を提案し、職員からの意見をもとに検討を行った。

また、児童それぞれの年表を作成し、子ども自身のエピソードに加え親の状況等についても書き込む作業を行うことで、親子関係についての動きが見える取り組みとした。この年表作成については、担当ケアワーカーのみならず間接処遇職員に加わってもらうことで、ケースの共通理解を試みた。

今後の課題

施設でのソーシャルワーク的取り組みによって子どもたちの育ちの背景の多角的な理解を深めることで、より子どもたちに寄り添ったケアワークに繋げていくことが出来ると感じるが、現状では担当等関わった職員以外には分かりにくくなってしまう現状がある。ケース記録の整理等の改善を行い職員の共通理解を深めると共に連携体制の強化を図りたい。

⑥ 育ちアルバム及び（自己）研鑽ノートの実践

☆育ちアルバム

- ・子どもたちのもっている多くの辛い過去や、曖昧な記憶を、少しでも肯定的に捉え大切にされた記憶を整理する手伝い
- ・職員が変わっても語り継げるように、養育のリレーのたすきの役割をもたせる
- ・日常のエピソードを記し、アルバム作成に役立てることを目的としたシートの作成と実践

- ・アルバム作成を実践＝最低1ページは作ってみよう
- ・作成してみたの反省と課題
 - ・育ちを確認する「育ちアルバム」を意識できなかった。
 - ・基本的な情報「いつ・どこで・だれ」が抜けていた
 - ・子どもの育ちを再確認できた
 - ・写真のない子の過去をどう埋めていくか…
- ・新しいシートを作成

☆自己研鑽

- ・各自、問題行動への対応、学び、その時の気持ちの発表

(4) 社会教育への参加

① サッカー教室

小学2年1名、小学3年2名、小学4年2名の5名が地域のサッカーに参加している。

週1回水曜日に18時～20時、喜連川グラウンドで練習を行う。学年によって練習試合や大会などが不定期に入ってくる。

サッカーを通して精神的にも肉体的にも少しずつ成長してきた。チームワークも大切であり、人間関係の構築もよくなっていけるといい。

② 合唱

中1女兒、小6女兒の2名が、毎週土曜日の午前10時～11時45分まで、喜連川公民館にて合唱の練習に参加。桜祭、雨情祭、さくら博等の演奏会、地元の老人ホーム慰問活動に参加した。

特に中1女兒は日ごろの練習に真剣に参加し、各種発表会にて堂々たる姿で歌うことが出来た。高学年のため、合唱団の中心的存在として先生からの期待も大きく、自信につながっている。

(5) 育成会活動

養徳園では地域交流の一つとして、さくら市子ども会連合会に、養徳園子ども会として小学生以上～高校生、ケアワーカーを主に育成者として入会し子ども会への参加をしてきた。また、各地域小規模児童養護施設（オアシス、野辺山の家）は各地域の子ども会に入会し、行事等に参加している。

活動内容

本園では毎月第一木曜日に園内で子ども会会議を行い、園での生活、行事の確認などを行った。また、年間計画として、春季にBBQ、6月に小運動会、夏季の万人プール、那須のが原プール、夏季のラジオ体操を行った。また計画にはないが児童の安全面等からの登校指導として職員が登校時に付添をした。

成果・課題

人数が多いこともあり、登校指導の必要性がでた。児童間の成員の成長も期待したい。施設内のみで人間関係が完結してしまいがちな施設養育のなかで、地域との交流は大きな意味を持つ。しかし職員が会合等に出席できず、情報の不足があったことも課題として残る。

(6) 衛生管理

毎月1回第3日曜日を衛生の日とし、室内及び園庭の清掃を行った。

(7) 防災訓練等

活動内容

消防訓練計画の作成、それに基づき各月に避難訓練及び消防訓練を行う。緊急連絡網の作成、緊急時対応マニュアルの配布、各ユニットに避難時の動きの確認のペーパーの貼りだしをした。また12月には喜連川消防署職員立会いの下での訓練を行った。8月に消防署に訓練報告をした。非常バッグ、非常時の備品、賞味期限などはチェックしている。

成果・課題

- ・ 避難訓練・・・年間計画表に基づいていたが日程が変わることもあった。
- ・ 12月に総合訓練実施。喜連川消防署職員に講評をもらった。
- ・ 非常食、賞味期限を確認し、処分、補充をした。
- ・ 緊急時防災バッグの中身のチェック、補充をした（11月）
- ・ 消火訓練時、火や煙の講話をする際、職員もネット等を調べ、分かりやすく説明をしたということもあった。

4 委員会活動

別紙参照

5 行事

種別	日時	行事名	場所（行先）	参加者数		
				児童	職員	その他
園内行事	4/4	交通指導 自転車免許習得試験、登下校練習	園⇄小学校	10	3	
	4/6	ちゅうりふ花見	ハートピア	6	3	
	5/3	GW楽しみ会（遊園地）	那須ハイランドパーク	3	2	
	5/4	GW楽しみ会（ボーリング）	大田原王冠ボウル	4	3	
	5/5	GW楽しみ会（公園）	ツインリング茂木	6	5	
	5/6	GW楽しみ会（映画）	TOHOシネマズ宇都宮	19	6	2
	7/5	小運動会	氏家体育館	55	40	189
	7/6	七夕	園庭	44	10	
	7/20	奉仕作業	園庭・周辺・畑	40	29	4
	7/21	パフェ作り	食堂	32	8	
	7/28	あすなる・なのはな・野沢プール	一万人プール	20	10	
	8/4	すずらん・たんぽぽ・チュリッププール		22	12	2
	8/2~3	小規模合同旅行	角田浜・長岡（新潟）	12	5	
	8/7	パン作り	食堂	30	7	2
	8/20~21	一泊旅行	勝浦（千葉）	42	25	
	9/1	不審者対応訓練	園内玄関ホール		22	
	9/6	中高生登山	あだたら山（福島）	23	15	
	10/10	七五三撮影	スタジオオリス大田原店	8	6	
	10/13	里親交流会	鬼怒グリーンパーク	台風のため中止		
	11/9	七五三	御嶽山神社、食堂	43	12	
	11/23	ユニット旅行（たんぽぽ）	TDL	8	4	12
	11/26	創立記念日	食堂	全員		
	12/6	総合避難訓練	園庭	38	10	
12/21	奉仕作業	園内	44	27		

	12/21	クッキー作り	食堂	30	13	
	12/23	クリスマス会	各ユニット	全員		
	12/26	高齢児合宿	冒険活動センター	10	8	2
	1/11	カレンダー製作	各ユニット、食堂	43	8	
	2/14	バレンタインケーキ作り	各ユニット、食堂	20	5	
	2/20~21	ユニット旅行 (なのはな)	ディズニーシー	6	4	
	2/28	〃 (野沢)	TDL	5	3	
	3/14	〃 (ちゅうりっぷ)	TDL			
	3/24	〃 (すずらん)	鬼怒川	7	2	
	3/3	ひなまつり	IFホール、食堂	41	14	2
	3/28	児童送別会	生活指導室、食堂	54	38	9
	3/28	同窓会	志生亭			
	3/31	児童と職員のお別れ会	食堂	51	38	
施設交流	2/7	児童福祉施設文化祭	高根沢町民ホール			
招待事業	4/13	那須どうぶつ王国・BBQ (西那須野RC)	那須どうぶつ王国	21	9	
	4/20	キッズニア招待 (B4S)	キッズニア	15	4	
	5/11	養徳園vs下野三楽園対抗スポーツ大会	日光体育館	16	6	
	6/15	イチゴ狩り	鹿子畑・吉澤一さん	16	6	
	7/13	人形劇招待 (カップの会)	栃木県教育会館	17	5	
	8/11~15	みらいの森イングリッシュキャンプ	埼玉県青少年総合野外活動センター	3	1	
	8/17	那須シニアLCすいか割り招待	ふれあいの丘	25	9	3
	8/23	たんぼの学校 (志鳥倶楽部)	南那須	10	2	
	9/23	栃木SCホーム試合観戦招待	栃木グリーンスタジアム	7	2	
	10/11~12	ピアキャンプ (こどもっと)	静岡県	3		
	10/19	那須どうぶつ王国招待 (西那須野RC)	那須どうぶつ王国	23	11	
	12/6	おやこの食育教室	喜連川公民館	9	3	
	12/19	クリスマス招待 (西那須野教会)	西那須野教会	5	2	
	12/25	宇都宮乳児院クリスマス会招待	宇都宮乳児院	9	3	
	1/12	アクトビティライオンズコンサート	宇都宮市文化会館	12	5	
	2/22	日光アイスバックスアイスホッケー観戦招待	霧降アイスアリーナ	11	5	
	4/5、5/25	NPO法人まちづくりネットワーク笑顔	とちじゅう交流館	延	べ	3
	6/29、7/25、2/28、	遊びと昼食		21		
	9/11	食事会	レストランチッチ 熊見悦伸さん	7	4	

6 施設の社会化

(1) 生活指導室の地域開放

市居合道部が毎週月・水・金、練習のために利用している。

(2) ボランティアの受け入れ

学習・保育・読み聞かせボランティア等、延べ46名（ボランティア企画行事及び招待を除く）を受け入れた。

園内で実施されたボランティア企画行事は次の通り

5/23	那須ハーモニーシニアライオンズクラブ	10名	花壇の手入れ
8/31	瓦職人組合	10名	瓦彫
8/25	宇都宮東ローターアクト	12名	花火
8/8	つばさの会那須塩原支部	8名	そうめん作り
12/13	更生保護女性会	20名	園内窓ふき

12/21	H.O.G栃木チャプター	30名	サタがハルに乗ってやってきた
12/22	日光アイスバックス	4名	交流会
12/25	サンタの会	25名	クリスマス会
2/28	ブリッジ愛好会	3名	コントラクトブリッジ
8/21、8/25、8/27、10/28、12/12、3/12、3/19	つばさの会那須塩原支部	延べ14名	食事作り

その他、矢吹るみ子さん、鷹栖律子さん、木村房子さん、斉藤悦子さん方が花壇の手入れに定期的に来園して下さいました。

(3) ん太郎自立部

宇都宮の美容師荒川憲司（通称ん太郎）さんが、毎月第2、4日曜日に、自立支援の一環としてボクシングと美容を教えに来園している。
25年度は計12回来園し、延べ79人の児童が参加した。

7 施設見学・研修、実習生の受け入れ

(1) 施設見学・研修

5/10	作新学院短大	34名	
6/7	那須烏山市民生児童委員	18名	
7/2	矢板市民生児童委員	15名	
7/10	喜連川地区民生児童委員	10名	
7/11	岡山県・玉島学園	4名	
10/7	宇都宮市清原地区民生児童委員	32名	
10/20	一時保護所職員	4名	
10/22	那須塩原市議会	8名	
11/13	那須町民生児童委員	20名	
11/19	県教育委員会児童生徒指導担当者	40名	
11/26	野田市民生児童委員	25名	
2/1	宇都宮市上籠谷公民館役員	18名	他

(2) 施設実習

・保育士

白鷗大学	2名	埼玉純真短期大学	4名
宇都宮共和大学	3名	TBC	2名
聖徳短期大学	2名	淑徳短期大学	4名
作新学院短期大学部	4名	共立女子大学	2名
佐野短期大学	2名	東京家政大学	2名
東京未来大学	2名	立正大学	2名
足利短期大学	1名		

・社会福祉士その他

国際医療福祉大学	4名
----------	----

計36名

8 職員研修

(1) 法人内研修

- ・社会福祉施設の運営（新任、4/22）

大谷園長、豊岡事務長

- ・先輩職員から伝えたいこと（新任）
齋藤統括主任、酒井主任保育士（5/14）
加藤園長補佐、森主任保育士（5/14）
- ・調理員から伝えたいこと（新任、7/9）
君嶋、臼井
- ・権利擁護と家庭的養護（全職員、9/10）
福田総合施設長
- ・子どもの理解と援助のあり方（全職員、11/18）
東、加藤
- ・中堅が語る児童養護（1/20、1/22）
氏養：館野、小室、石川 養徳園：郡司、田島

(2)園内研修

- ・学習指導の現状と課題、その対策について（4/22）
- ・性的問題への対応について(6/20)
- ・リービングケア及びアフターケアについて（7/22）
- ・育ちアルバム・自己研鑽ノートについて（9/22）
- ・親子関係の再構築について（10/22）
- ・性教育について（11/22）
- ・育ちアルバム・自己研鑽ノートについて（1/22）
- ・リービングケア及びアフターケアについて（2/24）

<施設処遇援助事業>

12月1日『障害福祉のしくみ』

講師 若倉健（桜花）

(3)施設外研修

日時	研修名	場所	参加者
7/3～4	関グロ児童養護施設研究協議会	茨城県・水戸京成ホテル	園長
7/3、7/10、7/11	コモンセンスペアリンティング 講師 岩井幸祐（県北児相）	県北児童相談所	森、佐藤、見目
9/5	施設見学 同仁会子どもセンター	茨城県高萩市・臨海学園	園長、豊岡、片桐
9/13～16	第20回ISPCAN世界大会・JaSPCAN学術集会	名古屋市・名古屋国際会議場	園長
9/19	公文・国語教材改訂勉強会	東京都品川区・公文教育研究会	南部
9/11	社会的養護に係るアフターケア関係者研修会 ・自立への一歩のために 講師 高橋亜美（ゆずりは）	とちぎ青少年センター（アミークス）	人見、赤羽、矢部 築井、合田
9/26	SBIブロック別研修&交流会	ホテルメトロポリタン仙台	人見
10/1～2	第29回関グロ児童養護施設職員研修	東京都渋谷区・国立オリンピック記念 青少年総合センター	園長、加藤、内山
10/3	給食施設従事者研修会	矢板市・塩谷庁舎	築井
10/28～30	第68回全国児童養護施設長研究協議会	京都市・ANAクラウンプラザホテル、 京都リサーチパーク	園長

11/13	第59回栃木県里親大会	日光市・鬼怒川観光ホテル	赤羽、園長
11/18～19	第3回福祉経営セミナー	千葉県・成田ビューホテル	豊岡
1/24～25	セカンドステップ研修会	東京都渋谷区・ガールスカウト会館	片桐
2/6	施設処遇援助事業 様々なニーズを持つ子ども達の理解と教育実践 ～心理的ストレスの対応～ 講師 原田浩司(宇都宮大)	中央児童相談所	内山、森、人見
2/17	給食従事者研修会	矢板市・塩谷庁舎	小堀
2/23	里親全体研修会	中央児童相談所	赤羽
2/25	第1回千葉県児童家庭支援センター大会	千葉市・生涯学習センター	片桐
2/28	2014年度子どもを見守るネットワーク研修会	東京都渋谷区・全理連ビル	片桐

栃養協研修事業及び部会研修

	日時	研修内容	場所	参加者
新任	4/30	社会人として ・心構え、ビジネスマナーなど	栃木県庁研修館	桑原、栗林
	12/15	社会的養護関連施設の種別ごとの現状と課題 講師は各施設の施設長 社会的養護の歴史と現状 講師 福田雅章	とちぎ福祉プラザ	桑原、栗林
	1/13	措置制度、児童養護施設の現状と課題 講師 牧恒男 子どもの心理 講師 狐塚貴博(作新大)	パーティ	桑原、栗林
若手	6/23	施設ケアの実際 講師 福田雅章	とちぎ福祉プラザ	滝澤、築井
	8/22	発達臨床心理学Ⅰ・Ⅱ 講師 秋場博 子どもの権利と社会的養護 講師 福田雅章 子どもの権利を守る取組 講師 館野太一	パーティ	滝澤、築井
	10/27	発達臨床心理学Ⅲ・Ⅳ 講師 秋場博 ペアレントトレーニング 講師 秋場美智子		
中堅	6/30	障害福祉のしくみ 講師 若倉健 中堅職員に求められる役割 講師 インソース	とちぎ福祉プラザ	寺澤、郡司
	9/2	不登校問題に取り組む～ロールプレイングを活用して～ 講師 牧裕夫(作新大) 子ども間の暴力防止について 講師 藤岡孝志(社事大)	中央児童相談所	郡司、寺澤
基幹的	8/26	栃木県における児童福祉行政 講師 益子照雄 児童養護施設の管理と運営 講師 牧恒夫 子どもの理解～発達上の問題とその対応～ 講師 高浜浩二(作新大)	とちぎ福祉プラザ	福田美、菅原
	11/10～11	事例検討を通して学ぶ 講師 伊達悦子(作新大) 関係機関連携 講師 田村隆(県南児相) 子どもの権利擁護 講師 館野太一 施設における日常的なケア 講師 福田雅章 アセスメントと専門的なケア 講師 藤澤陽子(武蔵野学院)	とちぎ青少年センター	福田美、菅原
	12/12	性の問題への対応 講師 塩田規子(救世軍世光寮) 社会的養護における家庭支援と基幹的職員の役割 講師 村井美紀(東京国際大)	とちぎ福祉プラザ	福田美、菅原
長期派遣	10/20～11/19	長期派遣研修	静岡県袋井市デンマーク牧場 まきばの家	加藤ま
専門	12/16～18	児童福祉施設指導者合同研修	横浜市・子どもの虹	内山

	1/13~15	児童養護施設中堅職員研修会 講義1 養育のあり方の基本 講義2 施設における性的虐待への対応と予防 講義3 自立支援 講義4 小規模化とスーパービジョンのあり方	東京都・全社協灘尾ホール	水沼
	2/12~13	ファミリーソーシャルワーク研修会 基調講演 多様化する家族と社会的養護の方向性 講師 保坂亨(千葉大) 分科会 児童虐待の課題と抱えた親子(家族)関係の再構築支援の実際 助言者 山辺朗子(龍谷大)	東京都・TOC有明コンベンションホール	片桐
施設長	6/12	施設長及び幹部職員研修会 人事管理上の留意点について ～幹部職員が配慮すべきことは～ 講師 藤岡孝志(社事大)	那須スポーツパーク	園長、加藤、豊岡、小川
ケアワーカー	9/4	施設見学 宇都宮乳児院、一時保護所		森、郡司、菅原、加藤ま、福田美、水沼、桑原、伊藤、滝澤、栗林、薄井
	9/8~9	新任職員研修 ・施設見学(イスター、泗水、虹、夢、アテレ、すみれ、マルコ) ・児童福祉法、施設最低基準 講師 佐山恵子 ・施設で生活するということ 講師 塩尻真由美 ・パネルディスカッション「先輩からのアドバイス～私はこうして乗り越えてきた」 ・グループ討議	栃木グランドホテル	片桐、薄井、森、郡司、園長
FSW	9/12	児童養護施設におけるFSWの役割 講師 島川丈夫(埼玉県・あいの実)	県庁昭和館	片桐
	11/26	施設見学	茨城県・筑波愛児園	片桐
	3/4	講義 対応の難しい親への支援について 講師 塩田規子(救世軍世光寮)	県庁昭和館	片桐
心理	10/10	WISC-IVについて 講師 大六一志(筑波大)	とちぎ福祉プラザ	東
調理員		食育教室実施に向けた講習会	IFC調理師専門学校	船山、菅原、郡司、福田美
看護師	11/27	子どもの健康管理と内服管理について 講師 世良喜子(国際医療福祉大)	宇都宮乳児院	近江

平成26年度事業報告(氏家養護園)

1. 運営全般について

平成26年度事業計画に基づいて事業運営を行った。本園のユニット化もかなり定着し、家庭に近い形での生活支援が浸透し、子どもたちも落ち着いて生活を送ることができるようになってきている。

特に、中学生は部活動に熱心に取り組んでおり、職員も子どもの部活動の時間に応じて出勤するなど積極的に臨機応変な対応をしてくれている。そのため夜も早い時間に就寝するなど規則正しい生活習慣が身につけてきている。小学生の男児も南ヶ丘JBCに入部し、さくら市の大会では優勝し見事県大会に出場するなど頑張っている姿が多くみられた。小学生女児も陸上競技で塩谷地区で優勝するなどの活躍する姿も見られた。また幼児においても全国児童養護施設絵画展で入賞するなどの頑張りも見られている。

しかしながら地域小規模児童養護施設の高校生の一部の子が、安定した学校生活を送れず、再三学校から呼び出しを受ける場面もあり、今後も何とか卒業までつなげられるよう支援していきたい。

また高校3年生4名のうち2名は就職、2名は大学進学と各々希望通りの進路へと進むことができた。

夏の高校生旅行は、とても有意義であり就職が決まった高校3年生をOBがお祝いに食事に連れて行ってきているなどのその後の交流も定着してきている。今後OB会を設立し、大人になってからもつながっていけるような機会を積極的に設けていきたい。

また全体的な健康管理は、概ね良好であった。入院した児童も2名いたが、早期発見・早期治療に努め長引くことなく退院でき、今では経過観察で定期的な通院になっている。(特発性血小板減少性紫斑病、自家中毒)

新たな取り組みとして、私的契約でトワイライトスティを行った。父子家庭のお子さんで、父親が仕事の都合で帰宅が夜遅い時間になってしまうため、園にて保育園まで迎えに行き、その後、園で父親が迎えに来るまでお預かりするといった取り組みを在宅支援の一環として行った。今後も在宅支援の一助となるよう児童家庭支援センターと協働していきたい。

2. 児童の動向

(1) 学年別在籍数(措置児童)

平成26年4月1日現在(みやこ家・琴平の家を含む)

	未就学	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	その他	計
男	4			5	3	1	4	1			2				22
みやこ家											1	2	3		6
女	5		1	1			2	2	2	1	1	1			15
琴平の家											3		2	1	6
計	9		1	6	3	1	6	3	2	1	7	3	5	1	49

平成27年4月1日現在(みやこ家・琴平の家を含む)

	未就学	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	その他	計
男	3	1			4	3	1	3	4	1					20

みやこ家										(1)	1	3	2		6(1)
女	4	2		2	2			2	3			1	1		18
琴平の家											2	3		1	6
計	7	3		2	6	3	1	5	7	2	3	7	3	1	50(1)

() は委託一時

(2) 月別入退所状況

月	性別	初日 在籍数	入所数	退 所 後			その他	月末 在籍数
				家庭復帰	措置変更	就職・自立		
4	男	28	1					49
	女	21						
5	男	29	1					51
	女	22	1					
6	男	29						50
	女	22		1				
7	男	29	1					50
	女	21						
8	男	29						51
	女	22	1					
9	男	29			1			49
	女	21			1			
10	男	27			1			48
	女	21						
11	男	27						49
	女	21						
12	男	27						49(1)
	女	21(1)	1					
1	男	27						49(1)
	女	22(1)						
2	男	27						49(1)
	女	22(1)						
3	男	27				2		48(1)
	女	22(1)	2			1		

(3) 委託一時状況

学年・性別	児 相	保 護 の 期 間 及 び 理 由				
小6・女兒	中 央	H26. 4. 9	~	H26. 5. 1	1	実母死亡 (その後入所)
中2・男児	県 北	H26. 4. 9	~	H26. 5. 1	1	実母死亡 (その後入所)
小3・女兒	中 央	H26. 7. 14	~	H26. 8. 1	1	実母拘禁 (その後入所)
中1・女兒	中 央	H26. 11. 17	~	H27. 3. 17		実父虐待 (その後入所)

中2・男児	中央	H27. 3. 25～H27. 4. 20	一時保護所満床のため
-------	----	-----------------------	------------

(4) ショートステイ状況

月	年齢・性別	延日数		
4月			10月	
5月			11月	12歳男児
6月			12月	8歳男児、6歳男児
7月	7歳男児、6歳男児	4	1月	
8月			2月	7歳女児
9月			3月	
			計	22

(5) トワイライトステイ状況

月	年齢・性別	延日数		
4月			10月	
5月			11月	6歳女児
6月			12月	〃
7月			1月	〃
8月			2月	〃
9月			3月	〃
			計	147

(6) 卒業生の進路

- | | | | |
|-----|------|---|-----------------------------------|
| 幼稚園 | 〇〇〇〇 | → | さくら市立南小学校1年(在園) |
| | 〇〇〇〇 | → | 〇〇〇市立〇〇小学校1年(家庭復帰) |
| | 〇〇〇〇 | → | 〇〇〇市立市〇〇小学校1年(家庭復帰) |
| 小学校 | 〇〇〇〇 | → | さくら市立氏家中学校1年(在園) |
| | 〇〇〇〇 | → | さくら市立氏家中学校1年(在園) |
| 中学校 | 〇〇〇〇 | → | 栃木県立〇〇高等学校1年(琴平の家へ異動) |
| | 〇〇〇〇 | → | 栃木県立〇〇高等学校1年(琴平の家へ異動) |
| 高校生 | 〇〇〇〇 | → | 栃木県立〇〇高等学校卒業→株式会社〇〇(真岡市)就職自立 |
| | 〇〇〇〇 | → | 栃木県立〇〇高等学校卒業→〇〇〇〇那須塩原店(那須塩原市)就職自立 |
| | 〇〇〇〇 | → | 栃木県立〇〇高等学校卒業→〇〇大学〇〇学科進学自立 |
| | 〇〇〇〇 | → | 栃木県立〇〇高等学校卒業→〇〇大学〇〇学部進学(措置延長) |

3. 養護の状況

(1) 給食

嗜好調査を行い、子どもたちの声を聞きながら新しいメニューも取り入れた。朝食・夕食はユニットで作り、食べることによって、家庭的な環境で会話を楽しみながら食事ができ、団らんすることができるようになった。また余った食材等も次の食事に回したりと工夫することによって、残食もかなり減った。小学生の子どもたちも卵料理などの簡単な調理は進んで行う様子が多く見られた。今後も食事のマナーなどについて、年少のうちからある程度は身につけられるよう支援していきたい。

また今後も引き続き、子どもたちが早く帰って来たくなるような食卓づくりを目標として行きたい。

(2) 健康管理

① 健康管理

年度途中になってしまったが、看護師を配置し、全職員で子どもたちの健康管理に留意し、全体的な健康管理も良好であった。ケアワーカーの子ども健康状態を見極める目線もだいぶ定着してきた。(のべ通院人数：516人、通院月平均：43人)

重い病気としては、中1女兒が血液系の病気(特発性血小板減少性紫斑病)で入院し、現在も通院にて検査・経過観察を行っているが、早期発見・早期治療であったため悪化せずすんでいる。また幼児の女兒が自家中毒ということで3回程入院を繰り返したが、年齢の成長と共に治まっていくだろうとの医師の診断あり、現在は落ち着いて生活できている。

また、発達的な課題を持った児童の入所が増えてきており、国際医療福祉大学リハビリテーションセンター等に通院し、服薬を要する児童が増えてきている。

② 通院状況(のべ通院人数514人)

内科・小児科(中津川クリニック・佐藤クリニック・小野子どもクリニック・中島医院・済生会病院・自治医大病院など)…160人

歯科(森島歯科)…41人

皮膚科(氏家皮膚科など)…84人

耳鼻科(中川耳鼻科・済生会病院など)…42人

眼科(加藤眼科・早坂眼科など)…33人

外科(黒須病院など)…2人

整形外科(半田クリニックなど)…31人

リハビリテーションセンター(とちぎリハセン、国福大リハセン)…123人

③ 各種予防接種

ポリオ…11人 MRワクチン…4人 日本脳炎…21人 ポリオ…11人 三種混合…2人 インフルエンザ…49人

(3) 学習指導

小学生の学習する習慣が、徐々にではあるが身につけてきた。また中学生も積極的に塾に通ったり同学年同士で成績を競い合う姿が見られるなど、相乗効果も見られるようになってきた。今年度は中学3年生2名が志望した県立高校に合格することができた。

(4) 職員研修等

日 時	研 修 名	場 所	参 加 者
4 / 3 0	児童養護施設等新任者職員研修	栃木県庁研修館	岩崎
6 / 1 0	子ども虐待防止セミナー	国立オリンピック記念 少年センター	大谷典
6 / 1 1 ～ 1 2	栃養協施設長幹部職員研修	那須スポーツパーク	園長、斎藤
6 / 2 3	栃養協若手職員研修	とちぎ福祉プラザ	迫田、小原澤、松崎、大木
6 / 3 0	栃木県児童養護施設中堅職員研修	とちぎ福祉プラザ	坂本、小室、関、高橋亮、
7 / 3 ～ 4	関東ブロック児童養護施設研究協議 会	茨城県水戸市	園長、斎藤
8 / 2 7	給食従事者研修	矢板塩谷庁舎	八木澤
8 / 2 9	県社協虐待防止研修会	とちぎ福祉プラザ	関、高橋亮、高橋恵、小原澤
9 / 2	栃木県児童養護施設等中堅職員研修	中央児童相談所	坂本、小室、関、高橋亮
9 / 8 ～ 9	栃養協ケアワーカー部会新任職員研 修	栃木市県南児童相談所	松崎、岩崎、大木
9 / 2 6	S B I ブロック研修	宮城県仙台市	永井
1 0 / 1 ～ 3 1	県外施設長期宿泊研修	宮城県仙台市丘の家子 どもホーム	高橋亮
1 0 / 1 ～ 2	関東ブロック児童養護施設職員研修	国立オリンピック少年 センター	園長、斎藤、鈴木真、坂本、小室
1 0 / 3	給食施設研修	矢板市塩谷庁舎	加藤
1 0 / 7	栃養協ケアワーカー部会	中央児童相談所	小室、関
1 0 / 2 7	栃木県児童養護等若手職員研修	中央児童相談所	迫田、小原澤
1 0 / 2 8 ～ 3 0	全国児童養護施設長研究協議会	京都府	園長
1 1 / 1 3	栃木県里親大会	鬼怒川	岡田
1 1 / 1 4	性教育研究会「東北セミナー」	宮城県仙台市	坂本
1 1 / 1 8 ～ 2 1	子どもの虹研修	神奈川県横浜市	大谷典
1 1 / 2 7	とちりハ病院研修会	とちぎ福祉プラザ	大谷典、石川、迫田、大木
1 2 / 3	給食従事者研修会	矢板市塩谷庁舎	加藤
2 / 2 ～ 3	子どもの虹研修	神奈川県横浜市	高橋恵

上記以外に栃養協のケアワーカー部会、F S W部会、心理部会、調理員部会、事務部会、看護師部会のそれぞれの部会研修会参加。

法人研修の実施・参加（テーマごとに対象者が参加した。）

(5) 行事

日 時	行 事 名	行 き 先 及 び 内 容	参 加 児 童
4 / 4	食育工場見学	カゴメ株式会社那須工場	希望者 12名
4 / 13	西那須野ロータリークラブ招待 那須どうぶつ王国	那須どうぶつ王国	幼児・小学生14名
4 / 26	ひだまりユニットお花見	ゆうゆうパーク	ひだまり児童12名
5 / 3	GW行事 那須ハイランドパーク	那須ハイランドパーク	希望者 36名
6 / 20	おおぞらユニット行事 ホテル観賞	高根沢 星宮神社付近	おおぞら児童11人
6 / 29	GW行事那須ハイランドパーク (野球部)	那須ハイランドパーク	小学生野球部9名
7 / 5	法人小運動会	氏家体育館	全児童
7 / 7	七夕	園内	全児童
7 / 13	宇都宮カップ友の会招待 観劇「しらゆきひめ」	栃木県教育会館	希望者 14名
7 / 22 ~ 23	中学生キャンプ	群馬県みなかみアリストン・ログ&オートキャンプ場	中学生 10名
7 / 28	ひだまりユニット行事 プール	那須野が原ファミリープール	ひだまり児童11名
7 / 29	だいちユニット行事 ボウリング	宇都宮 ゴールドレーン	だいち児童8名
8 / 3	サッカー観戦	栃木県グリーンスタジアム	希望者 20名
8 / 5	そよかぜユニット行事 プール	さくら市総合公園プール	そよかぜ児童8名
8 / 5 ~ 6	高校生旅行	千葉県勝浦方面	高校生 11名 卒園生 2名
8 / 6	おおぞらユニット行事 プール	真岡市一万人プール	おおぞら児童9名
8 / 7	だいちユニット行事 プール	真岡市一万人プール	だいち児童7名
8 / 8 ~ 9	幼児キャンプ	那須スポーツパーク	幼児 9名
8 / 15	おおぞらユニット行事 花火観賞	喜連川花火大会	おおぞら児童9名
8 / 20 ~ 22	小学生キャンプ	板室オートキャンプ場 ナーデルバウム	小学生17名
8 / 25	そよかぜユニット行事	真岡市一万人プール	そよかぜ児童9名
8 / 30	ひだまりユニット行事 花火観賞	氏家大橋河川敷	ひだまり児童12名
8 / 30	そよかぜユニット行事 花火観賞	氏家大橋河川敷	そよかぜ児童9名
9 / 8	十五夜	園内	全児童
9 / 27	カエルクラブ行事	那須烏山市 下野大橋付近	小学生希望者7名

	カヌー教室		
10/11	さくら保育園運動会招待	さくら保育園	小学生希望者5名
10/13	法人里親交流会	鬼怒グリーンパーク	幼児・小学生18名
10/18	さくら市福祉まつり	喜連川社会福祉センター	高校生 2名 希望者 10名
10/19	西那須野ロータリークラブ招待那須どうぶつ王国	那須どうぶつ王国	幼児・小学生14名
11/9	七五三	御嶽山神社	対象児童 3名
11/23	サッカー観戦	栃木県グリーンスタジアム	希望者 9名
11/29	社会体験行事(東京ディズニーランド&シー)	東京ディズニーリゾート	全園児
12/20	クリスマス会	園内	全園児
12/28	大掃除	園内	全児童
12/28	餅つき	園内	全園児
1/1	初詣	護国神社	希望者 18名
1/20	岡田選手激励会	高根沢 元気アップ村	野球部 7名
2/3	節分	園内	全園児
2/8	栃木県児童福祉施設 児童文化祭	高根沢町民広場トレーニングセンター	全児童
2/21～ 22	スキー・スノーボード行事	会津高原たかつえスキー場	希望者 22名
3/3	ひな祭り	園内	全児童
3/8	卒業を祝う会	園内	全児童
3/25	おおぞらユニット行事 ラウンドワン	ラウンドワン宇都宮店	おおぞら児童5名
3/26	そよかぜユニット行事 外食・カラオケ	ガスト 氏家店 カラオケバンバン	そよかぜ児童8名

4. 施設の社会化

(1) 施設実習

淑徳短期大学大学	4/21～	5/2	2名
	5/5～	5/16	2名
	5/19～	5/30	2名
中央医療福祉専門学校	5/12～	5/31	2名
共和大学	6/9～	6/19	2名
東京福祉大学	6/23～	7/5	1名
〃	10/13～	10/25	1名
国際介護福祉専門学校	7/7～	7/16	2名
足利短期大学	7/28～	8/9	2名
国際医療福祉大学	7/30～	8/24	2名
〃	8/25～	9/19	2名
作新短期大学	8/16～	8/26	2名
〃	8/27～	9/6	2名

佐野短期大学	9 / 9 ~ 9 / 19	2名
埼玉純真短期大学	1 / 13 ~ 1 / 25	4名
聖徳短期大学	1 / 30 ~ 2 / 9	4名
〃	3 / 15 ~ 3 / 25	4名
白鷗大学	2 / 20 ~ 3 / 2	2名
〃	3 / 3 ~ 3 / 13	2名
合 計		42名

(2) ボランティアの受入れ

学習ボランティア…国際医療福祉大 サークル“まなびや” 毎週水曜日 (小・中学生対象)
 奉仕作業…さくら市更生保護女性会
 クリスマス会…サンタの会
 卒業を祝う会…VOXRAY
 定期的な寄付…マルハン那須塩原店、氏家店 (お菓子)、ギョウゾウ (野菜、米)、鹿沼市齋藤保夫 (米、餃子)

(3) 施設見学

6 / 20	さくら市民生委員	12名
11 / 18	塩谷地区小学校職員	10名
1 / 17	さくら市更生保護女性会	23名
3 / 10	國學院大學栃木短期大學	25名

5. 各ユニット事業報告

略

6. 地域小規模児童養護施設みやこ家の事業報告

略

7. 地域小規模児童養護施設琴平の家の事業報告

略

8. 各支援グループ反省

① 余暇支援グループ

予算案を立てて計画的に行事を立案したつもりであったが、行事によっては計画通りにいかない行事もあった。今後は園長とも事前によく相談し、全職員に周知できるようにしていきたい。またキャンプに関して、同じ職員に数回引率をお願いする形になってしまったため、今後はバランスよく引率する職員を手分けしていきたい。各行事担当者は、前年度の反省を踏まえ行事計画を立ててくれているため、年々スムーズな流れができてきている。誰がどの担当になっても良いように、資料をきちんと作成し、次年度の担当者の引き継げるように努めていきたい。

② 子ども会議グループ

子ども会議の場面が、子どもたちの意見を集約しながら約束事を決める有意義な機会となってきた。また、子ども会議以外でも意見箱への投書等子どもの意見表明ができる場面が確立されるようになってきている。ユニットごとに子ども会議担当職員を配置し、細かい意見まで拾い上げ、それをユニット会議等で検討し、子どもに返していく習慣ができるようになってきた。

その反面、投書箱の確認が遅れてしまい、子どもへの返答が遅くなってしまったこともあったため、今後はこまめな確認が必要である。

③食育会議グループ

- ・食育会議のメンバーで毎月の献立を確認し合っている。
- ・子どもたちに朝夕のメニューを立てる機会を設けた。(各ユニットで1週間のメニューを決める) その結果、肉中心のメニューになってしまったが、かえって子どもたちからも「肉ばかりじゃ嫌だ!ときどきは魚や野菜も食べたい!」等の意見も出て、バランスよい食事の在り方を学ぶ結果となったことは、有効な機会となった。
- ・畑で栽培した野菜を収穫して、メニューに取り入れることによって子どもたちも積極的に野菜を食べてくれるようになってきている。
- ・(株)カゴメ那須工場の見学を行った。

④生活支援グループ

- ・各ユニットごとに生活全般についての意見をもらい、随時検討・協議し、より良い生活環境の構築に努めた。
- ・畳替えを行った。
- ・日々の生活の中で、節約・物の大切さを子どもたちに伝えた。
- ・日常生活において、子どもたちが「大切にされている」と感じることができるよう、生活環境を整えていきたい。
- ・職員と子どもが一緒になって、環境整備ができる機会を継続する。
- ・安心して過ごすことのできる「生活づくり」を支援していく。

9. 総括

今年度を通しての入所率は、95.5%であった。4人部屋と個室に分かれているため、入所児の最後の一人二人は空いている部屋の年齢に応じた児童の受け入れしかできなくなってしまう(例えば、4人部屋で他3人が小学校低学年だとどうしてもそこには入れる学年が限定されてしまう)ため、なかなか100%の入所にはなりにくいのが現状である。

また最近の傾向として発達の課題を抱えている児童の入所も増加しており、リハビリセンター等に通院し、服薬している児童が25%程在籍しているのも現実である。そのため日々の生活支援において苦悩する場面も増えてきている。園での生活はとりあえず職員が支援していけば何とかあることもあるのだが、学校という集団での生活を営むことができないと本人にとっても失敗経験が増え、自己肯定感を持ちづらくなってしまふ恐れもあり心配される場合もあるため、今後さらに児童相談所とも協議をしながら、その子にとっての“最善の利益”を追求していきたい。

ここ数年続けて高校3年生になっての入所といった、高年齢児の入所が増加してきている。短期間で関係性を構築しながら、支援していくことの難しさを感じながらも無事高校卒業まで迎えられる事は、氏家養護園としてのスキルアップになっているものと信じ、通学の利便性等地の利を生かしながら、児童相談所からの信頼を築き上げて行けるよう、今後も努力していきたい。

中学生においても積極的に部活動に取り組む姿勢が多くみられ、規則正しい生活習慣を実践することにつながってきている。さらには、小学生も南ヶ丘JBCに積極的に参加し、数名がレギュラーとして結果を残してくれている。保護者会の方々との交流もスムーズになってきており、地域の方々の理解も深まってきているように感じられる。今後も地域に根ざした施設づくりを目標に施設の地域化・社会化に努めて行きたい。